

研修会報告

平成 30 年 10 月 18 日

文責： 宮坂智充

研修会テーマ「新しい敗血症診断用検査薬を用いた遺伝子関連検査を学ぼう」

開催日時 平成 30 年 10 月 13 日（土） 13：30～16：15

会場 東北医科薬科大学 小松島キャンパス 中央棟 3 階 3B 講義室

司会 東北医科薬科大学 宮坂智充

生涯教育点数 20 点

参加者 会員参加者 15 名 入会申請中会員 0 名 非会員 1 名 賛助会員 1 名 学生 0 名
合計 17 名

講演 1 「全自動遺伝子解析装置 FilmArray® システム」

ビオメリュー・ジャパン(株) 臨床営業本部 営業学部 見付 聡 先生

講演 2 「自動多項目同時遺伝子関連検査システム Verigene®システム」

(株) 日立ハイテクノロジーズ ライフサイエンス 三浦 哲男 先生

講演 3 「敗血症診断用遺伝子検査の導入にむけた取り組み」 ～臨床検査技師の立場から
考える事～ 国立病院機構 仙台医療センター 佐藤 哲哉 先生

講演 4 「小児と(微生物)検査と医師と技師」：講演タイトルの変更あり

宮城県立こども病院 リウマチ・感染症科 医長 桜井 博毅 先生

16:10 終了

内容

今回のテーマは「新しい敗血症診断用検査薬を用いた遺伝子関連検査を学ぼう」であり、近年上市され、有用性が認められる遺伝子関連検査について、メーカーによる機器の紹介、導入事例の報告（検査技師）、医師の立場からみた有用性について講演頂いた。

各演者の講演から以下のことを学ぶことができた。本検査機器は保険によって得られる技術料と検査試薬代および人件費の差額の収入だけを注目するのではなく、その背景にある副次的効果による患者の利益や病院収入の増加（すなわち、適切な抗菌薬の使用による良好な患者アウトカム、在院日数の短縮、抗菌薬代を中心とした医療経費の削減、アウトブレイクの未然防止による損失の防止等）における有用性が理解できた。本講演を通して、それらの趣旨を参加者に伝えることができ、微生物部門の役割の重要性を再認識できる講演となった。特に講演 4 では、医師が求める迅速検査について学び、検査室での運用などにおよぶ質問も出るなど活発な討議が行われた。参加者は皆最後までメモをとりながら熱心に聴講していた。今後も宮城県臨床検査技師会員のために楽しく学べる研修会を開催し、勉強する場を提供したい。